

帯広市立大空学園義務教育学校で出張授業を実施

令和8年2月6日（金曜日）、「帯広市立大空学園義務教育学校」において、北海道森林管理局による出張授業を実施しました。

北海道森林管理局では、若手職員を中心とした有志による「広報ワーキングチーム」を立ち上げ、森林や林業の役割について理解を深めてもらうため、広報活動の改善に取り組んでいます。

その取組の一環として、「小学校5年生が社会科で森林や林業について学ぶ」ことに着目し、森林に関する授業用プログラムを作成し、学校での学習をサポートする取組を継続して行っています。

今回は、帯広市立大空学園義務教育学校からの依頼を受け、新たな授業プログラムを作成できる機会であったことから、出張授業を実施しました。

また、当日は5時限目が授業参観日であったため、保護者も参加する形での出張授業となりました。

出張授業は午前・午後の2時限に分けて実施しました。午前の授業では、パワーポイントを用いた講座とグループ討議を行い、午後の授業では、保護者も交えた体験型アクティビティ「ウッドボウリング」とグループ討議を行いました。



パワーポイントを用いた講座の様子

午前の授業は、「木を伐ることは悪いことではない」「木を育てることの大切さ」をテーマにスタートしました。

最初に、○×クイズを実施しました。問題ごとに○と×の位置へ移動し、体を動かしながら森林に関する基礎的な知識を楽しく学べる内容としました。



○×クイズで正解を目指して移動する様

北海道の森林面積が北海道全体の約7割を占めていることを紹介すると「思っていたより多い」と驚きの声が上がりました。

その後、針葉樹と広葉樹の違い、人工林と天然林の違いについて説明しました。児童は真剣な眼差しで話を聞いており、特に針葉樹と広葉樹は3年生の時に地図記号で学習していることもあり、関心を持って取り組んでいました。

続いて、「考えてみよう！」の時間として、木を植えてから成林するまでに、どのような手入れが必要かについて、アサガオの育て方を参考にグループで話し合い、発表を行いました。「木が成長するために周りの草を刈ってあげる」「木が成長して混み合ってきたら、間引くために伐ってあげる」など、児童は一生懸命に考えた意見を堂々と発表していました。

午後の授業では、保護者も参加し、「ウッドボウリング」という体験型アクティビティを行いました。8種類の広葉樹をボウリングのピンとして使用し、2投で倒せた本数の合計を競いました。



ウッドボウリングの様子

児童や保護者は、「どの木を使おう」「重たいほうが倒れやすいのでは」など相談しながら、楽しそうに取り組んでいました。



ウッドボウリングのピン

その後、ゲームを通じて気に入った樹種を選び、グループに分かれて話し合い、発表会を行いました。「肌触りが好き」「イタヤのにおいが好き」「ナラを中心の模様がきれい」など、さまざまな視点から樹種の違いに注目した意見が出されました。



グループに分かれての話し合いの様子

職員からは、それぞれの樹種の特徴や用途について紹介しました。ナラがウイスキーの樽に使われていることを説明すると、保護者からは納得の表情が見られ、イタヤがメープルシロップの原料となる木であることを伝えると、児童からは驚きの声が上がっていました。



広報ワーキングチーム員

授業の最後には、林業は木を「くり返し」使うことができる「循環可能な産業」であること、そして日常生活の中で木を積極的に使ってほしいことを伝え、授業を締めくくりました。

授業全体を通して、積極的に発言する児童が非常に多く、森林や木への高い関心が感じられました。

今回の出張授業は、十勝西部森林管理署の職員にも運営に協力していただきました。この出張授業を通じて、一人でも多くの小学生が森林に興味を持つきっかけとなれば、職員としても大変うれしく思います。

広報ワーキングチームでは、最終的に職員が出張授業を行わなくても、小学校の先生方が手軽に森林の授業を実施できるプログラムを作成することを目指しています。今回の授業で得られた成果を更にブラッシュアップし、小学校社会科における森林の学習を、より分かりやすく、楽しく学べるプログラムの検討を進めてまいります。

なお、学校での調べ学習にも活用できるよう、当局ホームページにおいて「キッズページ」を公開していますので、ぜひご利用ください。



キッズページはこちらから

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kids_page/index.html